

今後の安全・安心科学技術の方向性（メモ）

1. 今般の大震災を踏まえた、国民の安全・安心確保における産学官の役割の明確化が必要ではないか。

2. 科学技術に関する中長期の展望

グリーン・イノベーション、ライフイノベーションに並び国民の安全・安心の確保 (Security and Safety Innovation) を第3の柱に掲げることが重要。

検討すべき課題としては：

- 今までに培った安全安心科学技術の社会還元
- 地震・津波など防災対策の技術革新
- 宇宙・海洋・他分野技術との連携
- 社会・防災インフラのマネジメント
- 安全・安心技術の民間開放とマーケティング
- 安全・安心推進のための社会科学との協力
- 震災復興への貢献 - 環境モデル都市 -
- 「安全・安心」研究者の人材育成
- 海外との連携。特に津波災害の（技術面だけではない、人文社会・経済など広い分野の科学を糾合した）国際活動拠点が必要なのではないか。

3. 具体的行動

国民の安全・安心確保に関するパッケージを検討する必要があるのではないか。特に GIS や情報通信を活用した防災情報システムに焦点。

4. その他の論点

- 「あり得ないこと (EX. 想定外の事象)」を想像し、議論し、対応を考える科学分野の必要性
- 科学技術による安全確保と並び、科学技術の安全確保を目標に掲げる。特に、科学技術の安全に関する国民の信頼の回復を図る。技術の安全に関する情報開示が含まれる
- 地震・津波等の基礎研究と応用研究の峻別についての検討

5. 世界に向けて

今回の地震・津波災害の教訓や経験を日本だけの教訓に終わらせるのではなく、世界と経験を共有し、論議し、世界が巨大地震・津波・災害に取り組む体制を作り上げることが真に必要なのではないか。